

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 5 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 9 月 27 日(土) 13 時～17 時

場 所：八重洲会議室 2A 会議室

構成員：理事 20 名，監事 3 名

出席者

理事長／水間正澄

副理事長／才藤栄一・出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・石川 誠・久保俊一・上月正博

近藤和泉・佐浦隆一・志波直人・島田洋一

白倉賢二・千田益生・帖佐悦男・椿原彰夫

道免和久・芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・田島文博

欠席者：理事／菅本一臣，監事／木村彰男

議 題

I. 報 告

1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成 26 年度第 4 回業務執行理事会 (Skype 会議) の報告があった。

2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況について報告があった。

3) その他

①リハビリテーション医療関連団体協議会

石川理事から，リハビリテーション医療関連団体協議会のグランドデザイン，地域包括ケア，診療報酬，人材育成の 4 つの部会での活動状況について報告があった。

②レジリエンスジャパン協議会

水間理事長から政府の国土強靱化基本計画を推進する民間主導の協議会が立ち上がり，災害支援の分野でリハ医学会が協議会の理事として参画するよう要請があったため，リハビリテーションの活動や JRAT の活動が認知・支援されるよう働きかける意味も含めて加わることとした旨報告があった。

③厚労省「高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たなあり方検討会」

水間理事長から厚労省老健局が，生活期リハの現状と課題を整理し，来年の介護報酬改定，さらには 2025 年に向けて地域包括ケアの在り方を探るための検討会を立ち上げ，リハ医学会として検討会に参

画するよう要請があり，参画することとした旨報告があり，今後リハの概念をさらに明らかにしていく必要があるため，主張すべき点があれば意見を出して欲しい旨要請があった。

④ ISPO 世界大会組織委員会

水間理事長から第 17 回国際義肢装具世界大会を 2019 年に誘致するための組織委員会への加盟要請があり，承諾することにした旨報告があった。しかし，依頼状にある会議の概要における主催，併催機関などの関係が明確ではないため，今後関係を明らかにしていくとの補足があった。

⑤医療心理士国家資格制度推進協議会

安保理事から臨時総会の報告があった。併せて，同協議会から寄附の依頼があったことについて，今後様子を見て支援の在り方について検討するよう要請するとの補足があった。

⑥大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会

浅見理事から日本医師会主催の大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会について報告があった。同連絡会は，今年度から医学会も加わり，女性医師の復職支援の在り方などの現状や課題が議論され，リハ医学会としても RJN 活動を中心に，女性支援の在り方を考えていく旨説明があった。

II. 審議事項

1) 第 52 回学術集会の準備状況について

里宇明元第 52 回学術集會会長から，第 52 回学術集會の準備状況及び収支予算案について説明があった。審議の結果，収支予算案については，抄録作成費が学術集會収入で賄えるよう再考してもらうこととし，改めて理事会に提案してもらうこととした。また，理事から，海外招聘講演者として，ISPRM のキャビネットから 2～3 名招聘してもらうこと，日本神経学会との合同企画開催のスケジュールについて，早めにアナウンスしてもらいたい旨の要請があった。

2) 理事長直轄委員会の任期及び各委員会申し合わせ案について

水間理事長から第 4 回理事会で設置が認められた

理事長直轄委員会（財務委員会、選挙制度検討委員会、ISPRM 2019 招致委員会、専門医制度委員会、刊行物の在り方検討委員会）の任期を本日から次回役員交代時の平成 28 年 6 月 8 日までとする旨説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

引き続き水間理事長から理事長直轄の各委員会の申し合わせ案について説明があり、特に、財務委員会及び選挙制度検討委員会については 10 月 25 日に第 1 回の委員会を開催するので、申し合わせ案について意見がある場合はその 1 週間前までに事務局に申し出るよう要請がありました承された。

3) 平成 26 年度後期各種委員会委員の委嘱について

水間理事長から平成 26 年度後期各種委員委嘱案について説明があった。今回は、委員会を指定しないで推薦された先生のリストから、3 名に委嘱することにした旨補足があった。この案に対して石川理事から、社会保険等委員会では委員が厚労省とのパイプを務めているため、任期満了によって委員交代をすると厚労省との関係が続かなくなる恐れがあることから、委員継続に配慮ができないかとの意見があり、審議の結果、委員を交代することが委員会にとってマイナスになる積極的な理由がある場合は、一旦特別委員として委嘱し、2 年後に委員に委嘱するよう取り扱うことを可能とした。この取扱いに伴い、後期委員委嘱案のうち社会保険等委員会の近藤国嗣先生を特別委員とすることとし、あとは案のとおり承認された。

4) 新専門医制度について

芳賀理事から専門医制度を巡る日本専門医機構及びリハ科領域での対応状況について説明があった。特に、専門医データの日本専門医機構への提供要請に対する専門医へのデータ入力依頼については、審議の結果、案のとおり承認され、専門医に依頼することとした。更に新専門医制度に向けた会員向けお知らせについては、10 月刊行のリハニュースに掲載し、今後本医学会 HP にも掲載する旨説明があり、了承された。続いて島田理事からリハ科専門研修プログラム整備基準(案)について説明があり、修正意見については 1 週間以内に島田理事に申し出てもらうこととした。また、浅見理事から日本専門医機構から各領域専門医委員会委員宛ての要請によって回答した専門医認定・更新に関するアンケートについて説明があり、了承された。

5) 新リハ機器の在り方委員会（仮称）の設置について

水間理事長からリハ関連の機器開発などを含めた

新リハ機器の健全な発展をリハ医学会が主導していくために、新リハ機器の在り方委員会を理事長直轄委員会として設置する旨説明があり、審議の結果、委員長を島田理事とし、委員会として来年早々を目途に研究会を立ち上げる準備を行うことを含め、原案のとおり承認された。

6) ISPRM 2019 招致委員会の設置について

水間理事長から 2019 年に ISPRM 国際会議を日本に招致するための委員会を理事長直轄委員会として立ち上げる旨説明があり、引き続き才藤副理事長から、これまでの経緯及び今後の対応等について説明があった。招致委員会の事務局は外部委託とし、ISPRM との交渉を行っていく必要があり、立候補は 12 月 8 日が期限となっている旨補足があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

7) 研究倫理について

出江副理事長及び川手事務局幹事から本医学会が行う研究倫理に関する申請手続き等について説明があり、審議の結果、更に意見を求め、遅くも 1 月の理事会で決定することとした。なお、アンケート等に係る迅速審査は、この案に基づいて進めていくことが了承された。

8) 規則等の改正案について

才藤副理事長及び事務局長から規則等の改正案について説明があった。審議の結果、提案された改正案のうち、Ⅶ-3 学会が行った調査データの二次利用に関する規則改正案は保留とし、その他の改正案については、1 週間の間に意見がなければ、会則検討委員会に附議することとした。

9) RJN 世話人の増員案及び RJN 世話人会内規案について

浅見理事から RJN 世話人会の業務負担を軽減するため特別世話人を 1 名増員する案について説明があり、審議の結果、了承された。引き続き RJN 世話人会内規案について説明があり、審議の結果、特別世話人とする必要性及び男女共同参画と RJN との関連について、内規にどのように盛り込むか、改めて検討し提案願うこととした。

10) リハ医学会会計処理規程(案)の制定について

事務局長から公益法人会計に対応した新たな会計処理規程を制定し、同時に旧来の経理規程を廃止する案について説明があり、審議の結果、「規程」を「規則」とし第 1 条に定款との紐付け条項を加える修正を行い、その他は原案のとおり承認され、会則検討委員会に附議することとした。

- 11) 事務局職員の出張旅費の取扱い改正案について
(会則検討委員会)
上月理事から事務局職員の出張旅費の取扱い改正案に対する会則検討委員会での検討結果について説明があった。審議の結果、「出張旅費の取扱いについて」を「出張旅費の取扱いに関する申し合わせ」に修正、また食事代の項は削除したうえで日当の額を調整することし、調整は理事長に一任することとした。その上で、改めて次回理事会に提案することとした。
- 12) 26年度専門医試験特別委員候補(案)について
白倉理事から平成26年度専門医試験特別委員候補者について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 13) 会員の入退会について
才藤副理事長から会員の入退会状況について説明があり、承認された。
- 14) 社会保険等委員会関係
石川理事から12月に開催される急性期病棟におけるリハ医師研修会について説明があった。また回復期リハビリテーション医師研修会をリハ医学会主催で開催することについて社保委員会で検討した結果、回復期リハの研修会がすでに年度内に3回計画されていることから今年度は回復期リハ病棟協会との共催とし、来年度はリハ医学会主催で開催することとした旨説明があり、了承された。更に、席上配布資料に基づき、地域における生活期リハ推進及び生活期リハの介護報酬要望案について説明があり、了承された。
- 15) 海外特別研修助成対象者について
佐浦理事からAOCPRM 2014参加のための特別助成候補者について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 16) 平成27年度各種委員会活動計画・予算調書について
安保副理事長から平成27年度各種委員会活動計画及び予算調書の作成について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。特に、作成のポイントとして、事業の必要性について十分検討していただくよう要請があり、了承された。なお、平成27年度予算編成スケジュールに基づき、10月1日に事務局から各担当理事へ依頼を行うこととした。
- 17) 資格認定委員会関係
①専門医・認定臨床医の更新について
浅見理事から専門医及び認定臨床医の資格更新について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 18) 施設認定委員会関係
①研修施設の新規認定について
椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
②研修施設の資格喪失について
椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 19) 専門医会関係
近藤理事から専門医会リハビリテーション医学基礎研究SIGコアメンバー再任案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
引き続き近藤理事から電子カルテのリハビリテーション処方箋機能に関する実態調査の企画について説明があり、審議の結果、調査集計データを外部者に公開することは研究倫理上の問題及び利益相反上の問題を含むため、企画書の文面を修正したうえで進めることを承認した。
また、近藤理事から専門医会アウトカムスタディワーキンググループの設置について説明があり、審議の結果、社会保険等委員会との関連性やデータベース委員会との関連性があることから、安保副理事長も交えて両委員会との調整を行い、専門医会において再検討するよう要請した。
- 20) 実習研修の実施要領に関する申し合わせ改訂について
正門理事から実習研修の実施要領に関する申し合わせ改定案について説明があり、審議の結果、案のとおり承認し会則検討委員会に附議することとした。
- 21) (2)-f号の複数講演申請について
正門理事から前回理事会で議論となった2-fの複数講演申請の手続き案について説明があり、審議の結果、前回話題となった申請は問題なく受講できることとなったこと、専門医制度の進捗によって単位数の取り扱いも変わる可能性があることから、今回の提案は保留することとした。
- 22) 生涯教育単位申請(2-e, 2-f(初回)項目)の理事会手続きについて
正門理事から、2-e, 2-f(初回)項目の理事会審議に関して、学会誌の合併号発行のタイミングとの兼ね合いで、理事会審議を待てない可能性があることから、3月の理事会でも審議を行ったが、改めて次のように取り扱いたい旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

①2-e 項目 この申請は、関連学会からの申請であり特に問題が生じないことから、教育委員会の専決事項とし、理事会へは報告事項とする。

②2-f (初回) 項目 この申請では、申請する研究会の規則等の確認が必要であることから、従来通り理事会審議事項とする。ただし、理事会審議が間に合わない場合は、教育委員会で仮決定し、後日理事会で承認を得ることとする。

23) その他

1) 後援・協賛について

才藤副理事長から後援依頼について説明があり、審議の結果、日本慢性期協会からの依頼についても、後援すること自体に問題はないことから、全ての申請に対して原案のとおり承認された。

Ⅲ. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成 26 年 7 月 12 日から 9 月 6 日に開催された各種委員会について次の通り各担当理事から報告があった。

なお、編集委員会に関しては、席上配布資料が追加され、学会誌のリニューアル及び英文ジャーナル刊行に向けたスケジュールについて報告があった。

- | | |
|---------------|------------|
| ① 編集委員会 | 道免理事 |
| ② 教育委員会 | 正門理事, 島田理事 |
| ③ 試験委員会 | 白倉理事 |
| ④ 診療ガイドライン委員会 | 近藤理事 |
| ⑤ 障害保健福祉委員会 | 久保理事 |
| ⑥ 関連機器委員会 | 島田理事 |
| ⑦ 関連専門職委員会 | 帖佐理事 |

2) 専門医会報告

近藤専門医会幹事長から専門医会学術集会の準備状況について報告があった。引き続き専門医会選挙管理委員会の報告があった。

3) JARD 報告

近藤理事から今年度第 1 回の日本データベース協議会について、この協議会の席上、データベース事業について JARD 加盟学協会代表に説明が行われ、今後のデータベースの在り方について意見交換があった旨報告があった。

4) RJN 報告

浅見理事から 11 月 16 日の専門医会学術集会の 2 日目に、日本医師会の医学生、研修医等をサポートする会の一環として RJN セミナーを開催する旨報告があった。

5) 2015 年度単位付与項目について

正門理事から報告があった。

6) 2-f (2 回目以降), 2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から生涯教育研修単位の申請について報告があった。

7) 2-e 項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から報告があった。

8) 病態別実践リハ研修会について

正門理事から報告があった。

9) 臨床研修医等医師向けリハ研修会について

島田理事から報告があった。

10) その他

① 寄附募集について

安保副理事長から寄附募集を開始し、医学会 HP にも寄附募集のバナーを設ける旨報告があった。

② 医学研究に係る COI 対応アンケートについて

出江副理事長から日本医学会利益相反委員会からのアンケートに対する回答を行った旨報告があった。

③ 脳卒中ガイドラインのパブリックコメントについて

出江副理事長から日本脳卒中協会が脳卒中ガイドラインへのパブリックコメント募集を開始した旨報告があり、協力の要請があった。

④ 事務局職員の就業規則等の検討について

水間理事長から、顧問弁護士を設置したことに関連して、事務局職員の就業規則等の見直しが必要であるとの指摘から、今後見直しを行い理事会に提案する旨報告があった。

5) 財務委員会、選挙制度委員会の開始に向けて

水間理事長から、財務委員会及び選挙制度委員会の第 1 回会議を 10 月 25 日に行うので、それぞれの審議内容について意見があれば 10 月 17 日までに事務局に提出するよう要請があった。

以上

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 6 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 11 月 29 日(土) 12 時～ 17 時

場 所：八重洲会議室 2A 会議室

構成員：理事 20 名， 監事 3 名

出席者

理事長／水間正澄

副理事長／出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・石川 誠・久保俊一・上月正博

近藤和泉・佐浦隆一・志波直人・島田洋一

白倉賢二・菅本一臣・千田益生・帖佐悦男

椿原彰夫・道免和久・芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・木村彰男

欠席者：副理事長／才藤栄一， 監事／田島文博

議 題

I. 報 告

1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成 26 年度臨時業務執行理事会及び第 5 回業務執行理事会 (Skype 会議) の報告があった。

2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告に併せ，医師以外の入会推進について協力依頼があった。

3) 選挙制度検討委員会報告

芳賀理事から，平成 26 年度第 1 回選挙制度検討委員会を開催し，椿原理事を委員長に選任したのち，代議員選挙及び役員選挙について検討を行ったが，検討事項については次回 (1 月 24 日) の理事会で案を提示できる旨報告があった。

4) 第 52 回学術集会について

水間理事長から，前回の理事会で第 52 回学術集会里宇会長から説明を受けた後，次のような変更をお願いした旨説明があった。① ISPRM 関係から Jianan Li 先生を追加していただいたこと。②慣例の代議員総会後の代議員懇親会を開催しないことから，代議員総会終了後に「医療倫理」「医療安全」感染対策」の講習会を実施すること。

これらの変更を加えた第 52 回学術集会実施案を，次回 (1 月 24 日) 理事会に里宇会長から提案いただき決定したい旨の報告があった。

5) 寄附金の受け入れ状況について

安保副理事長から寄附金の受け入れ状況の報告があり，目標額の 500 万円を達成するために，関係方

面への協力依頼があった。

6) その他

①リハビリテーション医療関連団体協議会

石川理事から 1) リハ医療関連団体協議会報酬改定作業部会報告として，介護保険におけるリハビリテーションの議論の要点について報告があった。

2) 平成 26 年 11 月 25 日の老健局老人保健課迫井課長との議論として，介護報酬改定の要望及び在宅支援リハセンターについて報告があった。また，関連して，在宅支援リハビリテーションセンターモデル事業開始のお願い(案)について報告があった。

関連して，水間理事長からリハビリテーション医療関連団体の 4 つの部会の活動状況について報告があった。また，朝貝監事から厚労省の障害児支援の在り方検討委員会の検討状況について報告があった。

②厚労省「高齢者の地域における生活期のリハビリテーションの新たなあり方検討会」

水間理事長から，本検討委員会は平成 26 年 9 月から 4 回開催され，そのまとめの報告として，提案 1「質の高いリハビリテーション実現のためのマネジメントの徹底 (生活期リハビリテーションマネジメントの再構築)」及び提案 2「リハビリテーション機能の特性を生かしたプログラムの充実 (生活機能に焦点を当てたアプローチの強化)」について報告があった。

II. 重要審議事項

1) 平成 26 年度中間決算について

安保副理事長から中間決算関連資料 (主に平成 26 年度上半期中間決算資料「現金収支ベース・学術集会収支・下半期収支見込含む」) により説明に併せ，今年度の最終決算で余剰金が見込まれるが，今後専門医のシステム及び国際会議の準備等特定費用準備資金として積み立てたいので，引き続き経費の削減に協力願いたい旨の提案があり，審議の結果，承認された。

関連して，水間理事長から負担金の中間決算時の改定予算額及び ISPRM への負担金額の改定予算について説明があり，審議の結果，ISPRM への負担額について従来は，本医学会負担額の他に個人が参加する場合別に個人負担金を支払っていたが，今回

から個人負担分も含む金額になっていることについて、ISPRMへ改定負担額に個人負担金が含まれているか再確認することで、承認された。

2) 第51回学術集会計報告について

加賀谷学術集会計幹事から第51回学術集会計報告があり、審議の結果、原案のとおり承認された。関連して、水間理事長から、今後は学術集抄録集作成費を学術集収入で賄うこととする旨の提案があり、承認された。

3) 新専門医制度について

芳賀理事から平成26年度第3回専門医制度委員会報告として、1)「専門医データベース作成依頼」について、専門医に移籍登録番号の登録を求めリストを機構に提出した。2) 会員へのお知らせについて、本医学会ホームページに会員以外が閲覧しても問題ない内容を「会員のページ」のログイン不要な部分にある「リハ科専門医」の部分に情報を掲載する方向とする。また、医学生・研修医へのアピールも必要のため、アピールの文章や情報を掲載することを広報委員会に依頼している。3) サブスペシャルティについて、全サブスペシャルティ領域に構築の依頼を行っている。4) 専門医・認定医の認定・更新について、第52回学術集時の代議員総会終了後、学術集とは別に「医療倫理」「医療安全」「感染対策」の講習会を開催したい。講習会開催の会場費が約60万円強の経費が発生するが、本医学会で負担してほしい。また、それぞれの講習会受講料として、千円を徴収したい旨の提案があり、審議の結果、承認された。5) 専門研修プログラム整備基準・研修カリキュラムについて、専攻研修マニュアル、指導者マニュアル等修正し、機構に提出する予定である。関連して、浅見理事からカリキュラム及び更新について追加報告があった。

Ⅲ. 審議事項

1) 専門医会幹事選挙について

安保副理事長から専門医会総会において専門医会幹事候補者が選出された旨の説明があり、審議の結果、承認された。なお、幹事長に幹事の互選により大串 幹先生が選出された旨の報告があった。

2) 国際脊髄損傷調査キックオフ会議への派遣について

水間理事長から主催者のProf. Gerold Stuckiから2015年2月26日～27日に開催される国際脊髄損傷調査キックオフ会議への参加要請があり、本医学会としてWHO及びISPRMとの関係を強化する一

環で、日本の代表組織として脊髄障害学会会長でもある田島監事に出席願うこととし、本医学会規定による国際会議出席旅費を支給したい旨の説明があった。なお、田島先生の都合で派遣者を変更する可能性がある旨補足があった。審議の結果、今回は派遣を承認するが、本件の手紙が個人宛か公式なものか不明確であることから、今後このような文書がきた場合、理事会で審議し、派遣の有無を決めることとした。なお、派遣終了後報告を出していただくこととした。

3) 規則等の改正案について

上月理事会から会則検討委員会で審議された規則等の改正案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4) 事務局職員就業規則等の改正について

水間理事長から事務局職員の就業規則等改正案について説明があり、理事会の承認によって12月17日に理事長、安保副理事長が事務職員に就業規則を説明し同意を得る必要がある旨提案があり、審議の結果、原案の通り承認された。

5) 事務局職員出張旅費の取扱い改正案について

水間理事長から前回理事会で再修正することとされたため、再提案する旨の説明があり、審議の結果、再修正案の通り承認された。

6) 26年度専門医試験特別委員（口頭試問）の追加について

白倉理事から専門医試験特別委員の追加について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

7) 日本医学会用語委員会委員の交代について

志波理事から太田喜久夫現委員から高倉朋和先生に交代する旨の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

8) 査読システムへの代議員登録について

道免理事から、現在の査読は編集委員会委員により行っているが、委員の負担が大きいため、代議員に査読システムに登録していただき査読に協力願いたい旨の説明があり、審議の結果、代議員の責務として協力願うことを承認し、次回理事会に詳細を出していただくこととした。

9) 平成27年度海外助成募集について

佐浦理事から平成27年度海外助成募集について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

10) 会員の入退会について

水間理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

11) 社会保険等委員会関係

石川理事から 1) リハ医療関連団体協議会報酬改定作業部会報告, 2) 老健局老人保健課迫井課長との議論, 3) 平成 27 年介護報酬改定に関する要望, 4) 在宅支援リハセンターモデル事業開始のお願い(案), 5) 内保連関係(例会 10/28), 6) 委員会報告(第 2 回 9/26) 説明があり, 審議の結果, 理事会の意見を社会保険等委員会で検討願うこととした。

12) 資格認定委員会関係

①指導医の新規認定について

浅見理事から指導医の認定について説明があり, 審議の結果, 原案の通り承認された。

13) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり, 審議の結果, 今後新専門医制度との兼ね合いが考えられるが, 現時点では本案を承認することとした。

②更新・年次報告による認定要件確認結果(案)について

椿原理事から更新・年次報告による認定要件確認結果について説明があり, 審議の結果, 承認された。関連して, リハビリテーション科の標榜及びリハ医学会として診療科に専門の医師がいないと駄目であることをアピールしてほしい旨の意見があった。

14) 2-f(初回)項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から 2-f(初回)項目による生涯教育単位の申請について説明があり, 審議の結果, 原案の通り承認された。

15) 一般医家に役立つ医療研修会について

正門理事から一般医家に役立つ医療研修会について説明があり, 審議の結果, 原案の通り承認された。

16) その他

①後援・協賛について

水間理事長から後援・協賛について説明があり, 審議の結果, 後援依頼があった公益財団法人全国病院理学療法協会については, 後援を承認することとし, 協賛依頼のあった日本慢性期医療協会慢性期リハビリテーション協会については, 協会の中にもう 1 つ協会が存在し実態が良く分からないので, 今回は承認しないこととした。

②国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別

認証評価委員会専門委員の候補者の推薦について出江副理事長から教育研究評価委員会専門委員として出江副理事長, 機関別認証評価委員会専門委員として道免理事を専門委員候補者として推薦したい旨提案があり, 審議の結果, 承認された。

IV. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成 26 年 9 月 15 日から 11 月 29 日に開催された各種委員会について, 次の通り各担当理事から報告があった。

- | | |
|---------------|------------|
| ① 編集委員会 | 道免理事 |
| ② 評価・用語委員会 | 志波理事 |
| ③ 教育委員会 | 正門理事, 島田理事 |
| ④ 資格認定委員会 | 浅見理事 |
| ⑤ 施設認定委員会 | 椿原理事, 浅見理事 |
| ⑥ 試験委員会 | 芳賀理事, 白倉理事 |
| ⑦ 診療ガイドライン委員会 | 近藤理事 |
| ⑧ 障害保健福祉委員会 | 久保理事, 菅本理事 |
| ⑨ 関連機器委員会 | 菅本理事, 島田理事 |
| ⑩ 関連専門職委員会 | 帖佐理事, 久保理事 |
| ⑪ 広報委員会 | 千田理事 |
| ⑫ 国際委員会 | 佐浦理事 |

2) ISPRM 2019 招致委員会

水間理事長から ISPRM 2019 招致の今後の日程等に併せ, 1 月の理事会で立候補するかどうかを決定したい旨報告があった。

3) 新リハビリテーション機器の在り方委員会

島田理事から新リハビリテーション機器の在り方委員会のこれまでと今後について報告があった。

4) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から平成 26 年度専門医会総会の報告があった。

5) RJN 報告

浅見理事から RJN 世話人会の報告があった。

6) 2-f(2 回目以降), 2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から生涯教育研修単位の申請について報告があった。

7) 病態別実践リハビリテーション医学研修会について

正門理事から病態別実践リハビリテーション医学研修会(神経系障害)について報告があった。

8) その他

①第 56 回日本神経学会学術集会の共催について

水間理事長から第 56 回日本神経学会学術集会の

共催について報告があり、共催を承諾することとした。

②事故等分析事業登録分析機関の登録更新について
水間理事長から報告があった。

③医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について
水間理事長から報告があった。

④日中医学協会からの助成金募集について

水間理事長から報告があった。

⑤福祉用具・介護ロボット（移乗支援分野）講師養成研修会開催について

水間理事長から報告があった。

⑥抗てんかん薬の薬剤情報添付文書における自動車の運転等に関する記述について
水間理事長から報告があった。

以上

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 1 回理事会メール審議議事録

平成 26 年 12 月 4 日付で行ったメール審議については、定款第 33 条第 2 項に基づく理事会の決議の省略とし、その記録として議事録を作成する。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成 26 年 12 月 8 日(月)

議 題

1. 当医学会定款第 33 条第 2 項に基づき、理事会の開催を省略して決定することの同意又は異議の有無について

理事全員の同意及び監事全員からの異議がない旨の回答に基づき、本議案は承認された。

2. 日本神経科学学会から第 38 回日本神経科学大会を本医学会との合同シンポジウムとすることの同意を求める依頼に対し理事会の判断を求める提案についての同意又は異議の有無について

業務執行理事会としては、合同シンポジウムではなく後援とすることを提案するが、次の A 案、B 案いずれに同意するか

(A 案) 日本神経科学大会からの要請通り、合同シンポジウムを開催することを許可する。

(B 案) 今回の申し出については、業務執行理事会提案通り「後援」として取扱う。

審議の結果、(A 案) に同意する理事 2 名 (B 案) に同意する理事 17 名となった。また、監事全員からの異議のない旨の回答があった。

3. 議決方法について、A 案又は B 案のいずれか過半数の同意を得た案を理事会の決定することについての同意の有無

理事全員の同意及び監事全員からの異議のない旨の回答に基づき、本議案は「後援」とすることが承認された。

なお、木村監事から本メール審議には異議がない

とされたうえで意見が寄せられ、説明を行った。その意見及び説明は次のとおりである。

1) 今回の審議、どれだけの緊急性があるのかわかりません。確認されたのかもしれませんが、先方に問い合わせ、回答期限を聞いて、次回の理事会での検討で間に合うかどうかを聞く必要があると思います。間に合うか、返事を待ってもらうことが可能であれば、次回の理事会での審議で対応可能であったかと思いません。

2) 緊急性のある重大事項は別として、できるだけメール審議は避けたほうが良いと思うからです。

(説明) 業務執行理事会では、先方の準備の都合上早めの回答が良いと判断しメール審議を行いました。木村監事のご意見のように、今後は依頼元の回答希望日などを把握して判断してきます。

また極力メール審議は避けたいというご意見は、一致しております。

3) 日本神経学会でなく、日本神経科学学会からということで、この点についての注意が喚起されています。確かに密接な関係にある日本神経学会ではありませんが、日本神経科学学会はある意味、社会的にはより大きな組織体であり、このような学会との関係も重要と思います。共催、後援などに関し、あまり深く議論がなされていないように思いますが、先日の脊髄障害のスイスの会議などの問題も含め、どのような相手とどのような関係を持っていくか、大枠としての本学会としてのスタンスを理事会で確認しておく必要があると思います。

(説明) このことにつきましては、業務執行理事会で考え方を整理して、理事会にご提案していきたいと考えます。

以上

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 2 回理事会メール審議議事録

平成 26 年 12 月 9 日付で行ったメール審議については、定款第 33 条第 2 項に基づく理事会の決議の省略とし、その記録として議事録を作成する。

理事会の決議があったものとみなされた日：平成 26 年 12 月 11 日(木)

議 題：

1. 当医学会定款第 33 条第 2 項に基づき、理事会の開催を省略して決定することの同意又は異議の有無について

理事全員の同意及び監事全員からの異議のない旨の回答に基づき、本議案は承認された。

2. 第 52 回学術集会における関連学会との合同シンポジウム等の開催に関することの承認を求める依頼に対する同意又は異議の有無について

理事全員の同意及び監事全員からの異議のない旨の回答に基づき、本議案は承認された。

以 上

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 7 回理事会議事録

日 時：平成 27 年 1 月 24 日(土) 12 時～17 時

場 所：都市センターホテル 701

構成員：理事 20 名、監事 3 名

出席者

理事長／水間正澄

副理事長／才藤栄一・出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・久保俊一／上月正博・近藤和泉
佐浦隆一・志波直人・島田洋一・白倉賢二
菅本一臣・千田益生・椿原彰夫・道免和久
芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・木村彰男・田島文博

欠席者：理事／石川 誠・帖佐悦男

議 題

I. 報 告

- 1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成 26 年度第 6 回業務執行理事会及び第 7 回業務執行理事会（Skype 会議）の報告があった。

- 2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告に併せ、医師以外の入会の促進について協力依頼があった。

- 3) 理事会メール審議について

水間理事長から 2 回にわたって開催されたメール審議の経緯と結果について説明があり、メール審議の議事録には理事長が署名する旨の補足があった。

- 4) 選挙制度検討委員会報告

芳賀理事からこれまでに開催された 2 回の選挙制

度検討委員会での検討状況について中間報告があった。①代議員選挙に関する検討を行い、代議員選挙については前回選挙における投票率が低かったことから、Web 投票を導入したこともその一因であると考え、書面投票に切り替えることを検討している。しかし、その場合は費用が掛かるためどれだけ費用を抑えることができるかが課題である。②選挙活動の規制に関しては、それを規制化するのではなく、ガイドラインを策定することを検討している。③役員選挙の在り方について検討しているが、次回理事会に案を示す方向である。

これに対し、ガイドラインに氏名を公表するとあるが、これは会員への懲戒処分になり、選挙管理委員会が懲戒権を有しているか問題である旨の意見があり、委員会で検討することとした。

- 5) 50 周年記念企画について

水間理事長から平成 27 年度が設立 50 周年記念事業の最終年度となることから、最終年度の事業として計画をお願いしたい旨要請があった。また、出版を企画して中断している小児リハ関連出版については、50 周年事業として改めて出版を目指すこと、ICF シンポジウム、JARD データバンク出版、地方会を通じた冠事業、第 52 回学術集会での企画、第 10 回専門医会学術集会での企画を実施する方向で検討するよう要請があった。

- 6) 寄附金の受け入れ状況について

安保副理事長から寄附金の受け入れ状況の報告があり、目標額の 500 万円を達成するために関係方面

への協力依頼があった。

7) その他

①リハビリテーション医療関連団体協議会

水間理事長からリハ医療関連団体協議会の活動状況について、グランドデザイン部会ではグランドデザイン作成のまともに入っていること、報酬部会は来年度に向けた診療報酬の要望準備を行っていること、地域包括ケア部会は国の動向を見ながら活動を継続、そして、人材育成部会はセラピストの育成を柱に検討しキャリアアップ指標を完成させたことなどの報告があった。なお、代表者会議において、JRATをリハ医療関連団体協議会内部に取り込むことを検討している旨補足があった。

②大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会

水間理事長からJRATの活動について、JRATの活動と自治体の活動の調整が難しい状況でもあること、JRATに活動資金がないことから国の国土強靱化計画に沿った活動であるレジリエントジャパン推進協議会の活動に応募して行き資金を獲得する計画であること、広報活動を重視していくため関連団体の分担金を来年度値上げすることなどの報告があった。

③日本脳卒中学会新理事候補の推薦について

水間理事長から日本脳卒中学会から同学会の新役員候補の推薦依頼があり、出江副理事長を推薦した旨報告があった。

II. 重要審議事項

1) 第52回学術集会企画及び収支予算案について

里宇52回学術集会会長から収支予算案について、参加人数の増及び日本製薬団体連合会からの補助金の減額に伴い収入見込みを変更したため、予備費が減額となった。また、抄録作成関係費用を学術集会予算の中に組み入れたとの説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。次に、プログラム案については、特別講演の「宇宙探査のロードマップとリハビリテーション医学への期待」及び「Missions and goals of ISPRM」並びにシンポジウムの「災害とリハビリテーション」については設立50周年記念事業企画とすることを含めて説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。続いて、理事会メール審議で承認された関連団体との合同シンポジウムについて説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

2) 平成27年度事業計画について

才藤副理事長から平成27年度事業計画案につい

て説明があり、各種委員会の事業計画を含め改めて見直しを行い、修正案を1月30日までに事務局長まで提出するよう要請があり、了承された。

3) 平成26年度収支決算見込み及び平成27年度予算案について

安保副理事長から財務委員会での審議に基づき平成26年度収支見込み及び平成27年度第一次予算案について説明があった。平成26年度収支見込みについては、学術集会収益、専門医更新料収益、並びに急性期リハ研修会収益などが予算に比して大幅な収益増となったこと及び各委員会をはじめ支出削減に協力いただいた結果、現時点で年度末約40,000千円の剰余金を見込んでおり、このうち15,000千円を前年度取り崩した特定資産に戻し入れる旨の説明があり、了承された。

続いて、平成27年度第一次予算案について説明があった。平成27年度は、会費値上げを行い30,000千円の収益増を見込むものの、平成26年度に大幅な収益が得られた科目について平成27年度での収益増が見込めないため、収益規模は平成26年度とほぼ同額に近いものとなり、剰余金はあまり期待できない状況となる。このため、改めて事業内容の見直しを行い、1月30日までに見直し内容を事務局長に提出するよう要請があり、了承された。

4) 新専門医制度について

芳賀理事から新専門医制度については専門医制度委員会を中心に準備を進めているが、当面リハ科の「専門研修プログラム整備基準」と研修カリキュラム原案を、この理事会および理事会後に行われる専門制度委員会で調整し、遅くとも1月26日には日本専門医機構に提出し認可を受ける必要がある旨説明があった。プログラム整備基準については、「脊髄損傷・脊髄疾患」は「脊椎脊髄疾患・脊髄損傷」に修正、専門研修基幹施設の認定基準については、大学病院が基幹施設となるよう明確に記述し研修プログラムも80程度に絞る必要があること、専門研修施設群の地理的範囲では、都道府県に1群を目安とし、人口が多い場合は複数群となるように修正するなどの意見が出され、専門医制度委員会で文面を調整することとした。また、芳賀理事から、整備基準と研修カリキュラムが認められたのち研修プログラムのひな型が機構から示され、これに基づき領域モデルプログラムを機構に提出・認可を受け、2015年度に入ってからモデルプログラムを公表するスケジュールとなるとの補足があった。

続いて芳賀理事から第52回学術集会前日の代議員総会終了後に、医療倫理・安全・感染対策の3本の講習会をリハ医学会主催で開催することについて説明があり、審議の結果、参加費を1講習会あたり2,000円徴収し実施することとした。なお、単位については、機構に必須単位として与えることを承認してもらうとの補足があった。

関連して水間理事長から日本専門医機構の社員について、現在芳賀理事が社員となっているが、昨年12月27日の機構の臨時社員総会で、社員は「領域代表」ではなく「学会代表」とする旨の決定が行われたため、リハ医学会は芳賀理事に代わって理事長を社員として登録したい旨の説明があり、審議の結果、承認された。

Ⅲ. 審議事項

1) 職員就業規則の制定について

水間理事長から昨年12月に前回理事会で承認された職員就業規則案について、理事長、安保副理事長とで小林弁護士立会の下に事務局職員に説明を行い、その場で出た意見等を踏まえ弁護士とも協議をした結果、職員就業規則の修正案を作成した旨の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。なお、この修正案は、改めて理事長が事務局職員に説明を行い、同意を得ることとした。

2) 平成27年度代議員総会等の日程案について

水間理事長から平成27年度代議員総会等の日程案について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。なお、久保理事から、医療倫理・安全・感染講習会については、第53回学術集会ではどのように考えたらいのか意見が出され、審議の結果今回のような実施方法は例外とし、今後は学術集会最終日に講習会を企画するなどし、その費用は学術集会予算で処理することを確認した。また、この講習会は質の担保が重要であることから、学術集会での受講を義務付ける必要があるとの意見が出され、了承された。

3) ISPRM 2019 招致について

才藤副理事長から前回理事会で手上げが承認されたISPRM招致については、12月3日に手上げを行った旨の報告があった。引き続き席上配布資料に基づき、国内会場候補地の視察結果に基づき、開催予定地を神戸としたい旨提案があり、承認された。また、Local Organizing Commissionメンバーとして、準備委員長を才藤副理事長、プログラム委員長

を水間理事長、副委員長を道免理事としたい旨提案があり、承認された。今後2月27日のFull Bit提出に向けた様々な作業について協力の依頼があり、了承された。

4) 平成27年度前期各種委員会委員の委嘱・退任について

才藤副理事長から平成27年度前期各種委員会委員委嘱・退任について、2月27日までに候補者を推薦していただきたい旨提案があり、了承された。なお、新規委員の委嘱に当たっては、委員会を指定しないで推薦された先生リストに掲げられている先生を優先するよう要請があり、了承された。

5) 全国福祉用具相談・研修機関協議会への入会について

水間理事長からテクノエイド協会が事務局となっている全国福祉用具相談・研修機関協議会からの入会案内について説明があり、本件については浅見理事から、この協議会にはリハ関連職種の団体が入会しているがリハ医学会が入会していないことから推薦した旨の補足があったため、審議の結果、入会することとした。なお、組織状況や活動状況について資料が送られていないため、事務局長から同協議会に確認し、後日理事会に報告することとした。

6) 第10回専門医会学術集会収支予算案について

大串専門医会幹事長から第10回専門医会学術集会収支予算について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

7) 第11回専門医会学術集会日程について

大串専門医会幹事長から平成28年11月12日・13日に予定していた金沢市での専門医会学術集会が金沢市民マラソンと重なることが判明したため開催日を10月29日・30日に変更し、金沢市で開催したい旨説明があり、審議の結果、承認された。

8) 専門医会研究補助金受賞者について

大串専門医会幹事長から平成26年度専門医会研究補助金助成対象者を横浜市大附属市民総合医療センター病院の高田薫子先生に決定し、他の候補者についても評価点で大きな差がなく優秀な研究であることから、専門医会としてawardを与えたいとの説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。なお、このような助成金事業について、会員になっても申請できる範囲とそうでない範囲が分かりにくいので、専門医会のあり方も含めて検討すべきとの意見が出された。

9) 全国医学部・医科大学リハビリテーション科責任者連絡会（仮称）について

水間理事長からかつて国公立大学の医学部リハビリテーション講座が集まって様々協議をする場があったが、現在では国立大学医学部のみが芳賀先生を代表として活動をしている状況であり、公私立大学における情報交換の場がなくなっていることから、あらためて全国の実態を把握し、医学教育・医師養成のための講座増を推進する場を作りたいとの説明があった。審議の結果、学会として講座の状況、教育の実態を把握することで講座を増やすための活動を行う必要があり、そのための実態調査を行うことについて承認された。

10) 内規改正原案について

都合により退席した佐浦理事に代わって水間理事長から① Honorary Member（外国人）に関する内規改正案及び② Corresponding Memberに関する内規改正案について説明があり、審議の結果、原案の通り承認され、会則検討委員会に回付することとした。

11) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から、会則検討委員会からの医師以外の正会員の推薦について説明があり、審議の結果、武田知樹先生と仲保徹先生の2名の入会を承認した。

12) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

13) 社会保険等委員会関係

欠席の石川理事に代わって川手事務局幹事から内保連、外保連、急性期病棟リハ医師研修会について報告があり、了承された。なお、社会保険等委員会報告書の中に誤解を招く表現があることから、修正するよう意見が出された。

14) JARD 事業計画について

近藤理事から今後のJARDの事業計画について、診療報酬改定への即応や国際対応などを視野に活動する予定であるが、当面、昨年度から行っているデータベース維持を平成27年度も続けるため1,500千円の負担をお願いしたい旨の説明があった。水間理事長から、リハ関連医療団体協議会でもデータベースにより急性期データを出すなど活用したい意向もあり、1,500千円の維持費負担を行いたい旨補足があり、審議の結果、承認された。

15) 施設認定委員会関係

① 研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明が

あり、審議の結果、原案の通り承認された。

② 研修施設の資格喪失について

椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

16) 2-e 項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から2件の生涯教育単位の申請について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

17) 平成27年度病態別実践リハ医学研修会について

正門理事から平成27年度病態別実践リハビリテーション医学研修会開催計画案について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

18) 平成27年度臨床研修医等医師向けリハ研修会について

島田理事から平成27年度臨床研修医等医師向けリハビリテーション研修会開催計画案について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

なお、芳賀理事から、研修会講師でなくても若手医師との交流の場とするために懇親会への参加も認められないかとの意見があり、島田理事から歓迎するとの回答があった。

19) 医療情報サービス Minds への掲載について

近藤理事から「神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン」の掲載について説明があり、審議の結果、掲載を許可することとした。

20) その他

① 後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があった。今回は5件の後援依頼があったが、このうち第5回日本ボバース研究会学術大会への後援については平成25年1月理事会において後援不可とした経緯もあり、今回も不可とし、他は可とすることについて、審議の結果、原案の通り承認された。

② 日本腎臓リハビリテーション学術集会の共催について

才藤副理事長から日本腎臓リハビリテーション学会からの同学術集会での共催シンポジウムの依頼について説明があり、同学会の理事長でもある上月理事から承認いただければ今後シンポジウムの内容についてリハ医学会と一緒に検討していくとの補足説明があった。審議の結果、共催依頼については、その内容について一緒に検討することが保障されている場合は承諾することとし、それ以外の場合は後援とするとのルールが確認され、本件は、共催を承諾し、上月理事をリハ医学会担当とすることとした。

IV. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成 26 年 12 月 2 日から平成 27 年 1 月 16 日に開催された各種委員会について次の通り各担当理事から報告があった。

- ① 編集委員会 道免理事
- ② 教育委員会 正門理事, 島田理事
- ③ 資格認定委員会 浅見理事
- ④ 試験委員会 芳賀理事, 白倉理事
- ⑤ 関連専門職委員会 久保理事

2) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から第 52 回学術集会における専門医会企画及び医学生向け集中講義企画について報告があった。これに対し、医学生がどんな企画に参加したらよいかわかるようにしていく必要がある、今後は教育委員会も協力するがまずは専門医会企画として進めてほしいとの意見が出された。

3) RJN 報告

浅見理事から RJN 世話人会の報告があった。このうち内規改正案については審議事項として承認し、会則検討委員会に回付することとした。

4) ICF シンポジウムについて

出江副理事長から 3 月 8 日に ICF Core sets 日本語版の出版を記念して厚労省と共催でシンポジウム

を開催するので動員願いたいとの報告があった。

5) JIS 見直し調査について

菅本理事からストーマに関する JIS 原案作成団体を、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会に移管した旨の報告があった。

6) 2-g, 2-f (2 回目以降) 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から生涯教育研修単位の申請について報告があった。

7) その他

① 臨床試験を適正に行える医師の教育に関する調査について

出江副理事長から同調査について回答する旨報告があった。

② ドイツリハビリテーション視察旅行について

水間理事長から在日ドイツ商工会議所が企画するリハビリテーションドイツ視察旅行について、興味があれば連絡をするよう報告があった。

③ 厚生労働省指定難病検討委員会連絡窓口の登録について

水間理事長から、厚労省から指定難病検討委員会から学会の検討を聞くための連絡窓口登録の依頼があり、近藤国嗣先生を登録した旨報告があった。

以上